

# 朝来市屋根付運動施設及び和田山中央文化公園再整備

## 基本計画

《多様な世代が集うパークプラン》



令和8年3月

朝来市

# 目次

---

1	はじめに	P1
---	------	----

---

- (1) 計画の背景
- (2) 屋根付運動施設整備の目的
- (3) 計画地の概要

2	施設整備の方向性	P3
---	----------	----

---

- (1) 基本コンセプト
- (2) 屋根付運動施設の主な仕様
- (3) 公園再整備への取組み
- (4) 導入機能

3	整備計画	P5
---	------	----

---

- (1) ズーニング
- (2) 動線計画
- (3) 施設配置計画
- (4) 導入施設イメージ
- (5) 今後のスケジュール (案)

4	参考資料	P15
---	------	-----

---

# 1 はじめに

## (1) 計画の背景

屋根付運動施設の整備については、平成 27 年度に市内 4 団体連名により要望書が市に提出されました。

その後、市では継続的に調査や検討を進め、令和 2 年度には市民の皆様からの御意見を伺うため「朝来市全天候型運動施設在り方懇話会」を設置し、幅広い意見交換を行いました。

さらに、令和 3 年度には、懇話会でいただいた御意見を踏まえ、屋根付運動施設の必要性について調査・研究を行いました。令和 4 年度には、新たに「朝来市全天候型運動施設整備検討懇話会」を設置し、より具体的な整備の方向性について議論を深めました。そして、令和 6 年度に、整備予定地を和田山中央文化公園に決定し、施設整備に向けて準備を進めています。

## (2) 屋根付運動施設整備の目的

市内のスポーツ振興の観点から体育施設の利用状況を見ると、体育館などの屋内施設に比べて、屋外運動施設の利用が少ないという課題があります。特に、冬季の利用は大きく減少しており、市民の皆様の運動量が季節によって偏ってしまっている現状があります。夏場の猛暑や直射日光、冬場の降雪や雨風など、気象条件に左右されずに利用できる施設を整備することで、天候を理由にスポーツ活動が中断されることを防ぎながら、年間を通して安定した運動環境を提供することが可能になります。

また、屋根付運動施設は、スポーツ実施率の向上や市民同士の交流・健康づくりの推進を支える拠点としての役割も期待されます。

さらには、屋根付運動施設を公園内に整備することで、公園機能の向上にもつながります。公園を訪れた親子などが、気軽にスポーツを「する」「みる」「ささえる」機会を持つことが期待されるとともに、スポーツへの関心を高めながら、「やってみよう」という気持ちにつながっていくことを目的としています。

## (3) 計画地の概要

整備予定地である和田山中央文化公園は、古くから交通の要衝である国道 9 号と国道 312 号が交わる「一本柳交差点」に近く、市内でもアクセスの良い場所に位置しています。周辺には、市民の皆様の憩いの場として親しまれている芝生広場をはじめ、和田山ジュピターホール、和田山図書館、和田山生涯学習センターといった文化・学習施設が集まっています。

さらには、商業施設や飲食店も立ち並び、市の中心部として多くの市民の皆様が訪れるエリアです。これらの文化・学習施設との“ゾーニング化”や、将来的な複合的施設の整備も視野に入れつつ、公園の魅力を損なわない屋根付運動施設を整備することによって、運動・文化・学びが結びつく新たな拠点づくりが期待できます。市民の皆様が気軽に集い、運動を楽しみ、文化に触れ、その後は商業施設や飲食店にも立ち寄れるなど、賑わいや交流を生み出す場になるものと考えています。

【施設の概要】



所在地	朝来市和田山町玉置 874 番地ほか
面積	約 16,400 m <sup>2</sup>
芝生広場	約 3,700 m <sup>2</sup>
駐車台数	91 台 (臨時駐車場除く)
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芝生広場</li> <li>・ 遊具広場</li> <li>・ パオ (屋根付砂場)</li> <li>・ 駐車場 (臨時駐車場)</li> <li>・ トイレ</li> </ul>

## 2 施設整備の方向性

### (1)基本コンセプト

関連する上位計画や、これまでに開催した懇話会でいただいた御意見を踏まえ、市内で初めてとなる屋根付運動施設は、スポーツ推進の拠点施設となるだけでなく、市民の皆様の健康づくりや地域の活性化につながる施設を目指します。

さらに、災害発生時には広域的な防災拠点としても活用するなど、多様な役割を担うことが期待されています。

本市の“新しいシンボル”となるこの施設を通じて、人と人がつながり、スポーツや文化を通して交流や笑顔が広がり、地域全体に幸せが循環していくような場となるよう、以下の4つの基本コンセプトを設定します。

#### **コンセプト① 市民がスポーツに親しむ、スポーツ推進の拠点となる施設**

##### **「する」スポーツの促進**

- ・健康づくりから競技スポーツまで、幅広い利用者のニーズに対応できる施設を目指します。
- ・様々な世代のスポーツ・レクリエーションへの対応が可能な施設を目指します。

##### **「みる」スポーツの促進**

- ・観覧席や公園をシームレスにつなぐためのオープンスペースや回遊路を設けるなど、公園を訪れた市民の皆様がスポーツを目にする機会の促進を図ります。
- ・天候に左右されずに予定することができるメリットを活かし、トップアスリートによる講習会や交流会等を開催することにより、子どもたちが夢や希望を持つことの大切さを学ぶことのできる施設を目指します。

##### **「ささえる」スポーツの促進**

- ・スポーツ団体等が集い、会議や研修などを行うことができる環境整備を目指します。

#### **コンセプト② 市民が元気に暮らせる健康づくりの拠点施設**

- ・市民の皆様が生涯にわたって活力に満ち、いつまでもいきいきと元気に暮らしていくための健康づくりの拠点となる施設を目指します。
- ・市民の皆様が気軽に立ち寄り、ウォーキングやジョギングを楽しむことによって、日常生活に溶け込んだ身近な施設を目指します。
- ・子育て世代が集い、天候を気にせず安心して遊べる屋内公園としての機能を合わせ持つ施設を目指します。

#### **コンセプト③ 様々なイベントを活かした賑わい創出の拠点施設**

- ・アクセスの良さと周辺環境を活かしたイベントを開催することにより、本施設を核とした賑わいの創出を目指します。
- ・集客イベントを開催することにより、周辺施設への人の流れを生み出す施設を目指します。

#### **コンセプト④ 災害に強いまちづくりに則した施設**

- ・和田山中央文化公園については、朝来市地域防災計画において広域防災拠点に指定さ

れており、屋根付運動施設を整備することによって、災害時の機能強化（自衛隊等の派遣隊駐屯基地、物資保管庫、避難所など）を目指します。

## （2）屋根付運動施設の主な仕様

屋根の形状や施設全体のデザインについては、公園の中に整備する施設であることから、周辺の景観との調和に配慮しながら、地域のシンボリック的存在となるようなデザインにする必要があります。

また、夏場の猛暑や直射日光、冬場の降雪や雨風といった気象条件への対策として、横壁の形状などについても、事業費や利用見込み、使用料などによる受益者負担を踏まえながら検討を進めます。

競技スペース（アリーナ）の大きさは、これまで想定してきた60m×40mを基本としつつ、市内で初めてとなる全面人工芝の導入や観客席の設置、複数の種目が同時に利用できる工夫など、多様な使い方を想定した整備を目指します。

## （3）公園再整備への取組み

屋根付運動施設の整備とあわせて、公園全体の再整備も行います。

当公園は、市内でも数少ない“都市的な雰囲気”を感じられる場所であるため、その魅力は大切にしながら、必要な面積を確保するために、隣接する私有地の取得についても調整を進めます。市民の皆様の憩いの場である芝生広場については、面積の縮小を計画していることから、利用しやすさや楽しさを高めるための機能強化を図ります。あわせて、子ども向けの遊具の増設や、健康づくりに活用できる健康遊具の設置についても検討します。

また、公園全体（道路を挟んだジュピターホール側を含む）を回遊することができる回遊路を設け、ピクトグラムを活用した案内サインや公園全体の案内板、休憩スペースや照明などを整備し、来園者がよりわかりやすく、安心して利用できる公園づくりを行います。

## （4）導入機能

公園内に導入する機能としては、次の機能の検討を行うこととします。

- ・屋根付運動施設・・・スポーツ推進の拠点（新設）
- ・芝生広場（芝生広場内にふわふわドーム設置）・・・機能強化
- ・子ども向け遊具広場・・・機能強化
- ・アーバンスポーツパーク（スケートボードなど）・・・新設
- ・陸上タータンコース（周回又は直線）・・・新設
- ・回遊路（ウォーキング、ジョギングコース）・・・機能強化
- ・健康遊具（大人向け）・・・新設
- ・トイレ、手足洗い場・・・機能強化

## 3 整備計画

### (1) ゾーニング

前章で定めた整備の基本コンセプトを踏まえ、公園内のゾーニング及び動線を以下の考え方で設定します。

#### ○エントランスゾーン

- ・公園の北・西・東側に出入口を設け、「エントランスゾーン」とします。
- ・様々な場所から公園にアクセスできるようにすることで、利用しやすい動線を確保します。

#### ○アクティブゾーン

- ・民家に隣接していない公園の南西側を、「アクティブゾーン」とします。
- ・屋根付運動施設を中心にアーバンスポーツパークを配置することで、市民の皆様が気軽に運動できる空間づくりを行います。

#### ○憩いとレクリエーションゾーン

- ・既存で広場が整備されている公園の中心部分は「憩いとレクリエーションゾーン」とします。
- ・既存の芝生広場を中心に、子ども向けの遊具や健康遊具、休憩施設などの多様な機能を整備することで、快適に憩い・交流を楽しむことができる空間とします。

#### ○緩衝ゾーン

- ・公園区域の道路や民家に隣接する部分は、「緩衝ゾーン」とします。
- ・樹木によって公園全体の景観形成に寄与するとともに、視覚的・物理的な緩衝地を設けます。

### (2) 動線計画

動線計画は、利便性や安全性を考慮しゾンプランニングを踏まえて設定します。また、本公園へのアクセスは、基本的に徒歩又は自動車によるものを想定します。

#### ① 主要動線

- ・公園内の主要動線は、園内全域を回遊するように設定し、幅員4mを確保する計画です。
- ・車椅子利用者を含め誰もが利用しやすいバリアフリー動線とし、主要施設への移動をスムーズにできるように段差や勾配に配慮した整備を行う計画です。

#### ② ウォーキング・ジョギングコース

- ・市民の皆様が日常的にウォーキングやジョギングを楽しめるコース設定を行います。
- ・公園とジュピターホールや図書館をつなぐことによって、さまざまな風景の中を歩くことができる回遊型のコースを計画します。







#### (4)導入施設イメージ

導入する各施設のイメージは以下のとおりです。

##### ①エントランス

- ・北、西エントランスは既存の出入口を活かした形で整備を行う計画です。  
新たに整備する東側エントランスは、第2駐車場から来園される方が利用しやすいよう、動線に配慮して計画します。
- ・第1駐車場については現状と同じ位置に計画します。  
屋根付運動施設の整備に伴い減少する駐車台数は、第2駐車場を整備することで補います。
- ・エントランスから気軽に利用できるウォーキング・ランニングコースを整備する計画です。公園内だけでなく、ジュピターホールや図書館へと続くルートとすることで、場所ごとに異なる景色を楽しみながら歩ける回遊型のコースとして、健康づくりや公園の新たな楽しみ方につながるよう工夫して計画します。

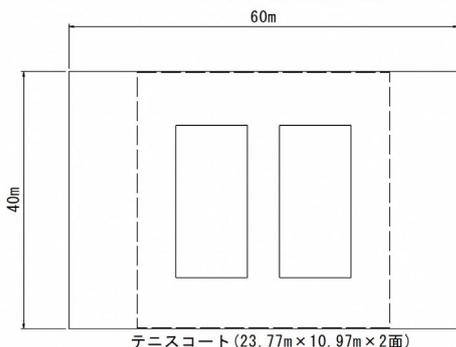
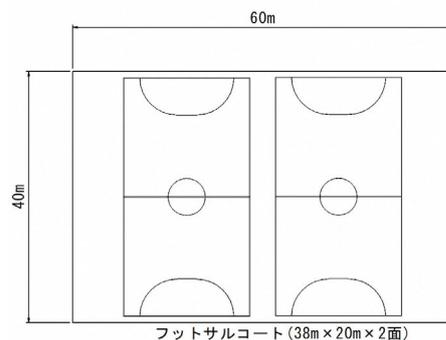
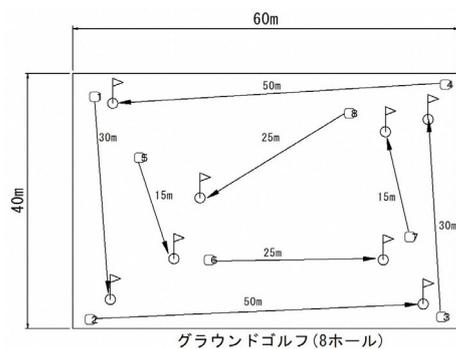
##### ②屋根付運動施設

###### 外観について

- ・屋根付運動施設の屋根は、周辺の景観と調和しやすく、日中には自然光を十分に取り入れられる素材を検討しています。留意する点としては、屋内空間が明るく感じられ圧迫感が少なく、公園の雰囲気を損なわずに整備する計画です。
- ・横壁については、雨天時の吹き込みや冬場の冷たい風の流入が想定されるため、設置する計画にします。横壁は開閉式とし、自然の風を取り込みやすい構造とすることで、快適な利用環境を確保します。

###### 内部・設備について

- ・競技スペースの大きさは、グラウンド・ゴルフやフットサル、テニス等の利用を想定した広さ60m×40mを基本として計画します。



上記のほかに、サッカーや野球、ソフトボール、陸上競技の基礎練習、モルックやボッチャなどのニュースポーツ、運動会やフリーマーケットなどでの利用も可能と想定しています。

- ・フィールド面は多様な利用目的に対応できるような、工法の導入を計画します。
- ・観客席は、スポーツ観戦者や来館者が快適に過ごせるよう、施設内に設置する計画です。
- ・夜間でも利用できるよう照明を整備し、ナイター利用が可能な施設を計画します。
- ・空調設備については、使用料など利用者の負担が大きくなることや屋根が高い構造では十分に空調が効きにくいことから、今回は整備しない計画としてスポットクーラーや暖房器具などの設置を計画します。
- ・施設運営に必要となる備品管理用の倉庫の設置に加え、スポーツ団体などが集まり会議や打合せが行える諸室の設置も計画します。
- ・クラブハウスのような役割を持った冷暖房完備のフリースペースを設けることで、施設利用者の休憩場所や、公園利用者の休憩スペースとして活用できるように計画します。

#### その他

- ・公園内に整備する施設ということを念頭に置きながら、公園を訪れた利用者の皆様が公園内で行われているスポーツ等を目にすることによって、“自分も身体を動かしてみよう”に繋がる、見るスポーツの推進が図れるような整備を目指します。（公園内で当該施設が独立しないように留意します）
- ・屋根付運動施設の外側に陸上競技の練習用にタータンコース(直走路)を計画します。
- ・スポーツ利用だけでなくイベントなどでの利用も想定しています。



屋内イベント イメージ写真



屋内イベント イメージ写真



屋根付運動施設外観 イメージ写真



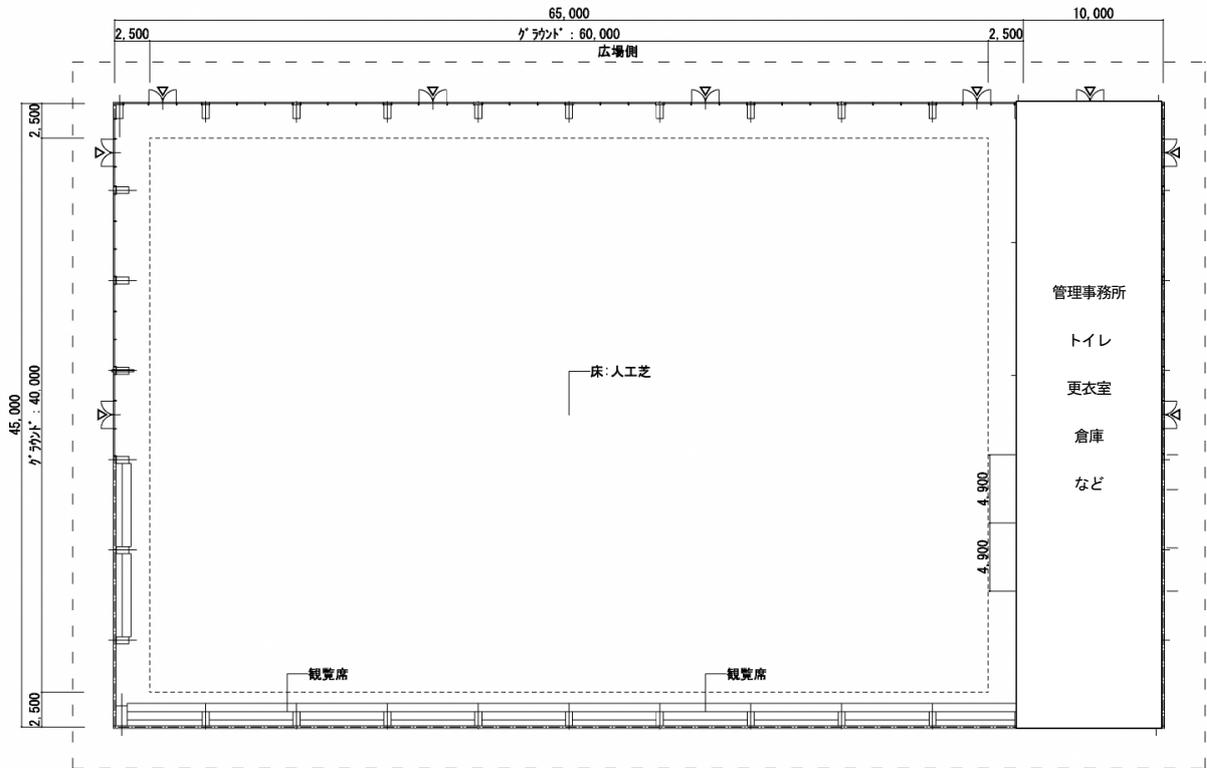
屋根付運動施設外観 イメージ写真



屋根付運動施設外観 イメージ写真



屋根付運動施設内装 イメージ写真



屋根付運動施設 イメージ図

### ③アーバンスポーツエリア（スケートボードパーク・3x3コート）

- ・アーバンスポーツエリアは近年関心が高まっている、アーバンスポーツ（都市型スポーツ）を取り入れることにより、誰もが様々なスポーツに触れて楽しむ場所として計画します。
- ・スケートボードは東京五輪で正式種目に採用されて以降、関心が高まっています。子どもから大人まで楽しめるスポーツであり、利用するだけでなく見学を楽しむことで公園全体のにぎわいにつながる施設としてスケートボードパークを計画します。
- ・3x3（3人制バスケ）は、子どもから大人まで気軽に取り組めるスポーツとして人気が高く、短時間でも運動ができます。特に若者を中心として人気が高く、仲間同士で運動する環境として3x3コート（11m×15m）を計画します。



スケートボードパーク イメージ写真



3x3コート イメージ写真

### ④健康遊具広場

- ・健康遊具広場は、子どもから高齢者まで誰でも気軽に利用できる健康づくりの場所として計画します。
- ・ウォーキングの途中や公園に立ち寄った際に使えるストレッチ器具や筋力トレーニング器具を配置し、市民の皆様の運動習慣の定着や健康づくりを支えることを目的としています。



健康遊具 イメージ写真



健康遊具 イメージ写真

## ⑤子ども広場

- ・屋根付運動施設に隣接する箇所に遊具広場を整備する計画です。
  - ・屋根付運動施設や周辺のシェルターから、広場内で遊ぶ子どもを親が休憩しながら見守る関係性をつくります。
  - ・既存遊具の一部再利用や新規の遊具を整備することによって、現状より魅力的な遊び空間を創ります。
- また、年齢に対応した複合遊具を整備することにより、子ども達が安全に遊べるように計画します。



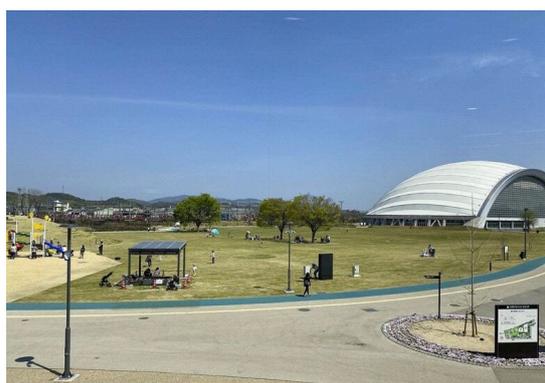
遊具 イメージ写真



シェルター イメージ写真

## ⑥芝生広場

- ・芝生広場は現状で整備されている芝生広場と同様の位置に整備を行う計画です。
  - ・屋根付運動施設を整備することで芝生広場の面積が縮小される分、ふわふわドームを整備することによって、魅力と機能向上を図ります。
- (芝生広場面積現況：3,700 m<sup>2</sup>→整備後：1,900 m<sup>2</sup>)



芝生広場 イメージ写真



ふわふわドーム イメージ写真

### ⑦緩衝緑地

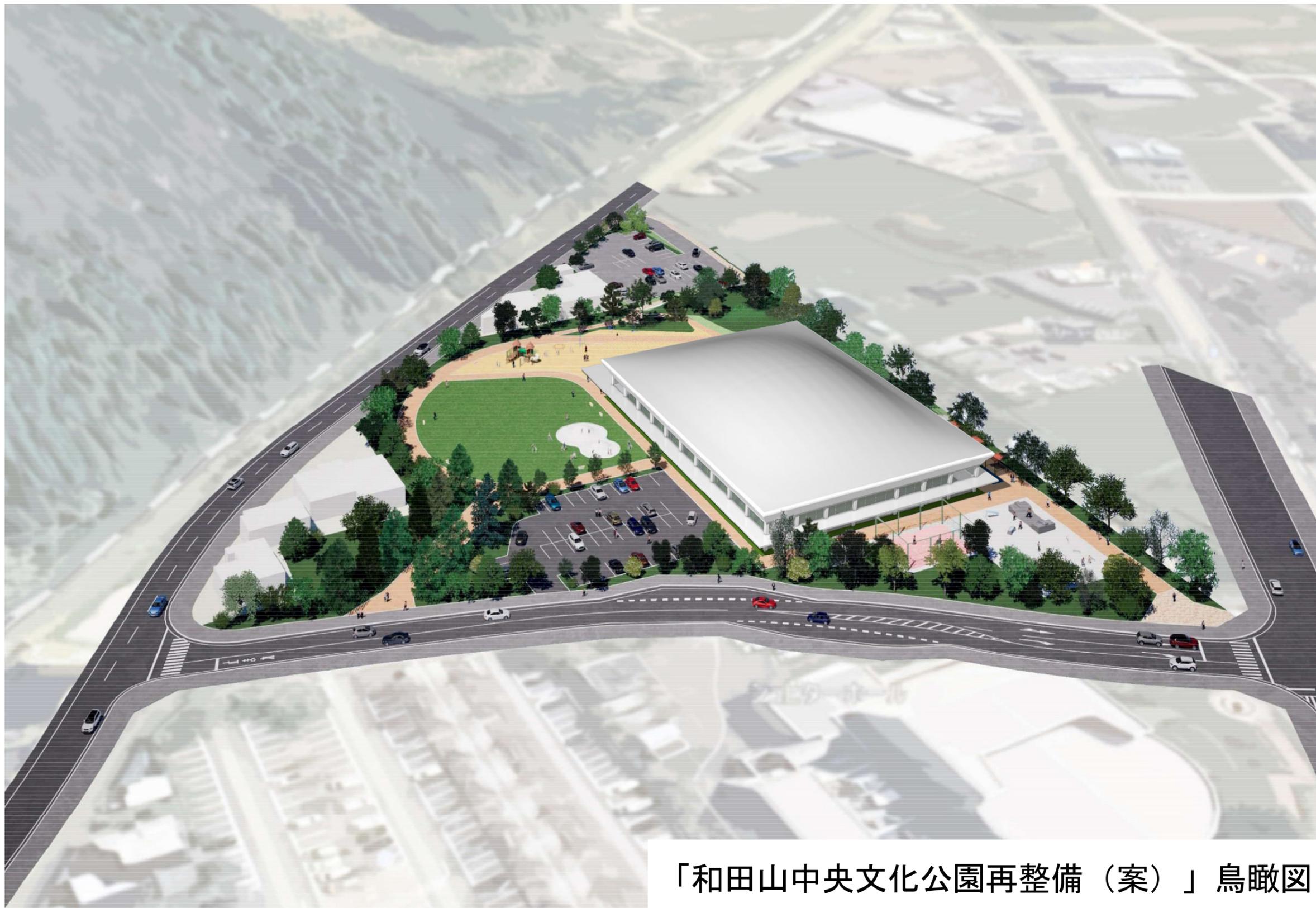
- ・近隣の民家や道路に面する部分については、現在ある樹木をできるだけ活かしながら、緑による緩衝ゾーンとして整備します。これにより、周辺環境への配慮と景観の保全を図ります。

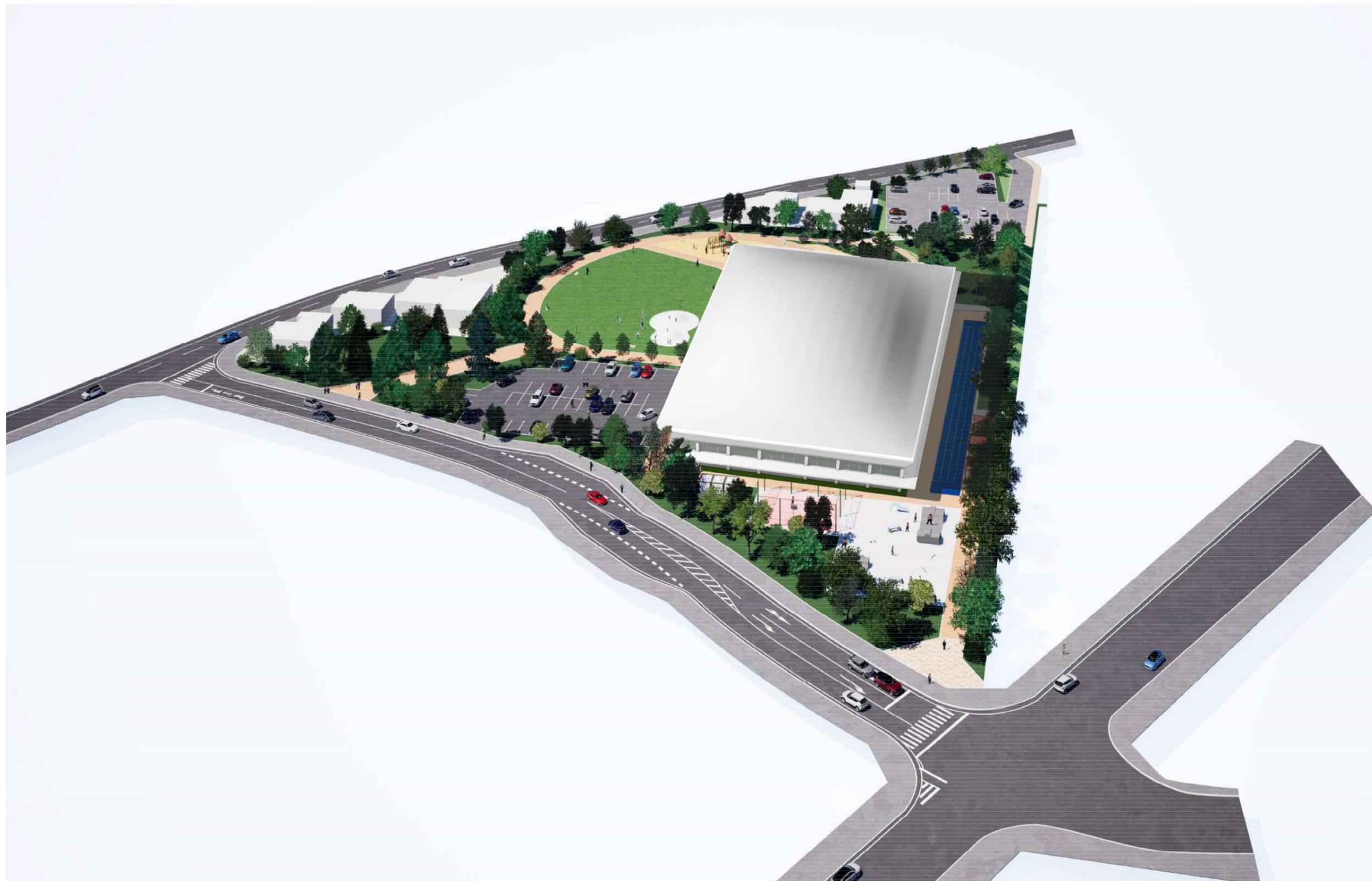
### ⑧駐車場

- ・現在の駐車場（第1駐車場）の駐車台数は約90台ですが、施設整備により駐車場の面積が縮小されることになるため、公園の東側に第2駐車場を新たに整備し、現在の駐車台数を確保する計画です。
- ・今後、第2駐車場の整備に向けて、私有地の取得に向けた調整を行う計画です。

### (5) 今後のスケジュール（案）

令和7年度	基本計画策定 屋根付運動施設基本設計完成
令和8年度	屋根付運動施設実施設計実施 中央文化公園再整備基本設計及び実施設計実施
令和9年度	屋根付運動施設（第1期工事）工事着工
令和10年度	屋根付運動施設（第1期工事）工事完成
令和11年度	中央文化公園再整備（第2期工事）工事着工
令和12年度	中央文化公園再整備（第2期工事）工事完成





「和田山中央文化公園再整備（案）」鳥瞰図